

香川県教職員育成協議会における主な意見等

1 開催日時等

(1)開催日時 令和4年12月19日(月) 10:00～11:40

(2)場 所 香川県庁本館12階 第5会議室

2 出席委員

委員	荒木 優衣	穴吹興産株式会社 グループ統括部 co-ba 統括マネージャー
	金子 達雄	香川県課養育委員会事務局教育次長
	北村 宏美	香川県特別支援学校長会会長 (香川県立高松養護学校長)
	小柳 和代	高松市教育委員会教育長
	阪根 健二	鳴門教育大学 特命教授
	竹野 安子	香川県高等学校PTA連合会副会長
	真鍋 佳樹	香川県小学校長会会長 (三豊市立詫間小学校長)
	柳澤 良明	香川大学教育学部副学部長
	藪内 康則	香川県教育センター所長
	山本 千景	香川県PTA連絡協議会副会長
	山本 浩樹	香川県高等学校長協会会長 (香川県立丸亀高等学校長)

3 委員から出された主な意見とその対応

意見等	対応
<p>キャリアステージについて、年数で区切るのはいかがでしょうか。</p> <p>キャリアステージについては自己申告があってもよいのではないかと。</p> <p>教員それぞれには強み、弱みがある。指標をもとに自分の課題に合った目標を各自で設定することが、資質向上のためには有効である。</p>	<p>キャリアステージの年数は前段部項目3(3)や、指標の表の見出しにもあるように、あくまで目安となる年数である。校種や学校規模等により、キャリアステージと年数の対応関係に差異が生じることが考えられるため、前段部項目4で、「目標設定をする際には、年数にこだわらず、教員経験や校内での立場等を考慮して、観点ごとに適切なキャリアステージのものを参考にすること」と「具体的な目標の設定が望まれること」を記載した。</p>
<p>「子どもの権利」が来年度以降注目されることとなるため、「子どもの権利」という言葉がどこにあるとよいのではないかと。</p>	<p>「生徒指導提要」改訂版にも新たに「児童生徒の権利の理解」が盛り込まれている。</p> <p>このことについては、各自で設定すべき「目標」に盛り込むのが適切だと考え、前段部項目2(1)目指すべき香川の教員像の箇条書き説明文中に「子どもの権利を尊重しつつ、子どもの成長を支援する教員」と記載した。</p>

意見等	対応
<p>Acに「研究」という言葉がほしい。</p> <p>研究マインド的なものをもって研究を積み上げていくイメージを出してほしい。自らのテーマをしっかりとって研究を進めることは強みにつながる。</p> <p>また、校内で研究体制を築くといった部分も出せたらよい。学校の研究の取組が単年度で終わって、数年後には研究の成果が実践に生きていないことがあるのは残念に思う。</p>	<p>御意見を踏まえて、自己研鑽（Ac、養Ac、栄Ac）に次のように記載した。</p> <p>基礎期：「自分を見つめ、適切な目標設定のもと、探究心を持って、研究と修養に励む。」</p> <p>発展期：「教育情報を広く収集し、適切な目標設定のもと、専門性を高めるための研究と修養に励む。」</p> <p>深化期：「学校全体を視野に入れた目標設定のもと、専門性を高めるための研究と修養に励む。」</p> <p>校内で研究体制を築くことについては、管理職の指標のマネジメント（管Cb）に次のことを追記した。</p> <p>教頭・副校長：「校内の研究体制を整え」 校長：「校内の研究体制を生かして」</p>
<p>高校では、評価がいちばん問題となっている。それについての記述が不十分ではないか。</p>	<p>Bb 学習指導の3つのキャリアステージすべてに、学習評価と授業改善についての内容を入れて見直し、「適切な学習評価を実施し、授業改善につなげること」を盛り込んだ。</p>
<p>栄 Bb1 食事摂取基準とか、学校給食衛生管理基準と具体的に書いているが、個別具体的な基準名ではなく「食に関する諸基準」としてはどうか。</p>	<p>食事摂取基準、学校給食衛生管理基準は、重要な基準であり、名称の変更はないと考えられるため、具体的な名称を示すことでより伝わりやすくなることから、そのままとしたい。</p>
<p>人材育成方針で大事なものは、利活用である。</p> <p>働き方改革と研修のバランスや若年教員への指導が大事である。</p>	<p>各市町教育委員会等と連携し、人材育成方針を周知・啓発するとともに、働き方改革と研修のバランスを図りながら、主体的に研修に取り組んでもらえるよう、研修内容の充実に努めていきたい。</p>